

1. 内政

- ・9日、ヴォローニン共産党党首は、21日に大規模反政府集会を開催する意向を表明。14日、共産党は、同集会の開催日の23日への変更を決定。
- ・14日、議会は、コルマン議長の発議による欧州統合プロセス支持に向けた宣言を採択。同宣言では、欧州統合はモルドバの戦略的な目標かつ不可逆のプロセスであり、ビリニウス首脳会合におけるEUとの連合協定の仮署名及びその後の署名はモルドバの欧州統合に向けた歴史的な一歩であるとしている。同日、議会は、一連の汚職対策法案を採択。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・12日、EBRDは、2013年のモルドバのGDP成長率を前回予想の2.5%から3.5%に上方修正した一方、2014年のGDP成長率を4.0%から3.5%に下方修正。

▼IMFとの協力

- ・12日、ラザル副首相兼経済相は、モルドバ政府がIMFとの新たな協力プログラムを開始する意向がある旨、IMFに書簡を出した、次回の交渉に先立って、モルドバ政府はIMFモルドバ駐在所と新たな協力プログラムでの問題点について議論しており、2014年1月にIMF調査団がキシナウを訪問して交渉が行われるであろう旨発言。

3. 外政

▼レアンカ首相のルーマニア及びベルギー訪問

- ・14、15両日、レアンカ首相は、ルーマニア及びベルギーを訪問。同首相は、ルーマニアにおいてバセスク大統領と会談し、ルーマニアによるモルドバの欧州統合路線の支持、進行中のものも含めたエネルギー協力計画等に関し協議。同首相は、ブリュッセルにおいてファン＝ロンパイ欧州理事会議長と会談。両者は、モルドバ・EU連合協定が仮署名される予定のビリニウス首脳会議の準備状況、また同署名に関する2014年の日程等に関し協議。同首相は、ビリニウス首脳会議直後にモルドバ国民に対する査証免除法案を提出する旨の欧州委員会決定に謝意を表明。

▼コルマン議会議長のドイツ訪問

- ・11、12両日、コルマン議会議長は、ドイツを公式訪問し、ランメルト連邦議会議長と会談。ランメルト議長は、ドイツ連邦議会は2004年と2008年にモルドバの欧州統合路線を

支持する決議を採択した旨、またドイツはEU近隣諸国の発展に関心を有しており、モルドバ政府が更なる改革を進めることを奨励する旨発言。これに対し、コルマン議長は、ドイツのモルドバに対する持続可能な経済発展支援及び様々な近代化政策に対する財政支援を含む支援に対し謝意を表明し、ランメルト議長を2014年にモルドバに招待。ランメルト議長は、同招待を受け入れ、時期に関し今後調整することで合意。

▼ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相のフィンランド訪問

- ・13日、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、フィンランドを訪問し、トゥオミオ外相と会談。両者は、二国間関係、モルドバの欧州統合路線及びモルドバ国民に対する査証自由化問題に関し協議し、モルドバがビリニウス首脳会議の機会に連合協定の仮署名を実施し、2014年には署名するという立場で一致。ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、ラサネン内相とも会談し、司法・治安問題に関し協議。

4. 沿ドニエストル

- ・12日、カルポフ国家再統合問題担当副首相とシュタンスキ「外相」は、ティラスポリのOSCE代表部で会談し、モルドバと沿ドニエストル間で住民登録を変更した者の年金受給問題に関し協議。両者は、今後専門家会合で協議をしていくことで合意。また、沿ドニエストル及びOSCEは、モルドバが外国旅券でモルドバを訪問し外国人登録を行わなかった沿ドニエストル住民に対し罰金を課さない決定をしたことを評価。一方、OSCEは安全地帯における状況に懸念を表明し、一方的な行動に出ないよう忠告。
- ・13日、レアンカ首相は、EUはキプロスのような国内に領土問題を抱える国を受け入れる余地はなく、我々はかかる状況を完全に理解しており、モルドバはEU加盟国になる前に沿ドニエストル問題を解決しなければならない旨発言。同首相は、また、沿ドニエストル問題解決は中期的目標であるが、短期的には沿ドニエストル問題が存在することでモルドバがEUとの関係を強化し加盟候補国となることを妨げると述べた者はいない旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)